



えびの

令和2年
(2020年)

11月号



今年7月、えびの市イチゴ団地に仙波さん一家が入植しました。

仙波健一さんと妻の恵利香さん、来人くん（4歳）と大芽くん（11か月）の家族は、昨年北海道から宮崎県に移住されました。高鍋町の農業総合研修センターで一年間の研修を行ったあと、えびの市イチゴ団地を利用してえびの市で就農し、現在約18aのハウスでイチゴの栽培をしています。

「昨年から現地に下見をしていました。話に聞いていたとおり、関係機関や先輩たちがバックアップをしてくれて、安心して農業ができています」と話す健一さん。

収穫は12月下旬頃から始まる予定です。

11月14日（土）・15日（日）に「第34回田の神さあの里産業文化祭」を開催します。

お越しの際は、引換券を切り取ってお持ちください。会場の引換所で粗品をお渡しいたします。

※各日、粗品の数に限りがあります。なくなり次第、配付は終了いたしますので、あらかじめご了承ください。

粗品
引換券

第34回 田の神さあの里産業文化祭



①鎌を使って稲を刈ります。
②足踏み式脱穀機で脱穀を体験
③唐箕を使って、風の力で重く実の詰まった籾だけを残します。



①



③

小学生が 稲刈り体験

J Aえびの市青年部・女性部は、10月26日、加久藤小学校の5年生と一緒に稲刈りをしました。

この稲刈り体験は、お米学習教室の一環として青年部が市内小学校に対して行っているもので、米作りを通して日頃食べるごはんの大切さや農業の喜びを伝えることを目的としています。

稲刈りをしたのは6月25日に児童らが田植えしたヒノヒカリで、青年部員らに鎌の使い方や足踏み式脱穀機、唐箕(とうみ)の仕組みの説明を受けた子どもたちは、昔ながらの収穫作業を楽しそうに体験していました。

手で稲を刈るのは初めてという加久藤小学校の木村夢華さんは「稲刈りをして、昔の人達の苦労をした気が持ちがわかった。脱穀機や唐箕を使うのは最初は失敗したけれど、色々な仕組みで動くのが楽しかった。今は色々な機械が発明されて、高齢化が進んでいる中でも若い人達が頑張っているんだなと思いました」と話しました。

収穫した新米は、学校の調理実習で市とJ Aが主催する米・食味コンクールの小学校の部に出品されます。

目次

地域の話題	2
使用残農薬等回収	3
産業文化祭のご案内	5
ほおずき通信	7
営農情報畜産関係	10
営農情報園芸関係	12
営農情報担い手支援関係	14
営農情報農産関係	16
ハウスクリーニング	17
プリエールあんしんの会	18
クロスワードパズル	19
行事予定	20



J A えびの市は、人権啓発推進事業に取り組んでいます。

えびのを食べよう 飯野高校生に特製弁当提供 えびの市畜産振興会

10月5日、JAの畜産部会や市など関係者からなるえびの市畜産振興会が、飯野高校の生徒・教職員約280人に宮崎牛をはじめとするえびの産の食材を使用した特製弁当を提供しました。

これは同会の地産地消応援消費対策事業の一環で、新型コロナウイルスにより需要が低迷している宮崎牛の消費拡大と地産地消を通して高校生への食育活動を兼ねて企画されたものです。弁当は道の駅えびのがメニューを考え、調理。A5ランクの宮崎牛のほか、米やピーマン、サツマイモ、しいたけ、卵など、すべてえびの産の食材を使用しました。



同会の小野田幹人会長は生徒らに「えびの市では、牛肉や米など日本を代表するような食材を生産している。高校生の皆さんに、えびの立派な食材を使った弁当を食べていただき、生まれ育ったふるさとをかみしめてもらいたい」と呼びかけました。

弁当を食べた宮原和天さん(17)は「おいしかった。こういう機会でない、全部えびの産の料理を食べるということがなかなかない。えびのの食材についてもっと学びたいと思った」と笑顔で話しました。

使用残農薬・農薬空容器の回収

使わない・使えない農薬、期限切れの農薬の一斉回収を、JAで購入いただいたものに限定して実施します。農薬の入っていた空容器（袋・ビン・プラ容器）等、テロン92、DD92、ソイリーン等の空缶についても回収します。

- ◆農薬は、法律により適正に処分することが定められています。
- ◆不必要な農薬・処分にお困りの農薬を一括回収し、処理専門業者に委託・処分します。
- ◆処分するにあたり、委任状の提出が必要です。必ず印鑑をご持参ください。委任状には氏名・住所の記入をお願いします。

- 回収日時 11月18日（水曜日）午前9時00分～午後3時00分
- 回収場所 グリーンセンター飯野店
- 回収料金 1kgあたり 140円（税込） ※現金のみ
- 必要なもの **印鑑をご持参ください**
- 問い合わせ先

グリーンセンター飯野店	33-2212	グリーンセンター加久藤店	35-0451
グリーンセンター真幸店	37-0023	本店 資材課	33-5719

※注意点※

- ①回収対象は農薬だけです（肥料や廃油などその他のものは回収しません）
- ②長期にわたる保管で、包装が弱くなり中身がこぼれるなどの事故がおきる場合がありますので、取扱い・運搬には十分注意してください。
- ③使い残しの農薬をひとつのビンや容器にまとめないでください。（化学反応して有毒ガスが発生する恐れがあります）

廃プラスチック集積日のお知らせ

◎今月は**ポリフィルム**の集積月です◎
(マルチ・肥料袋など)

- ・集積場所 えびの市一般廃棄物最終処分場
- ・時 間 午前9時～午後4時
- ・集積日 **11月17日(火)**

※ビニールとポリフィルムは混ぜないように注意してください。農業用廃プラスチックの適正な処理をお願いします。

相続無料相談会

農地や貯金の相続でお悩みの方のご相談をお待ちしております。

事前に電話でお問い合わせの上お越しください。

開催日 11月25日(水曜日)

場 所	時 間
真幸支店	午前10時30分～午前11時30分
加久藤支店	午後1時～午後2時
飯野支店	午後2時30分～午後3時30分

お問い合わせ 審査課 33 - 3107

家賃支援給付金の申請サポート会場の変更

10月号の広報で掲載しておりました小林中央公民館の申請サポート会場は閉鎖しました。

最寄りの開場は、宮崎市のシェラトン・グランデ・オーシャンリゾートとなりますので、ご案内いたします。

シェラトン・グランデ・オーシャンリゾート
宮崎市山崎町浜山シェラトン・グランデ・オーシャンリゾート5階

申請サポート会場電話予約口(オペレーター対応)

0120-150-413

受付時間 9:00～18:00 ※平日・土・日・祝日含む

MR I 脳ドック検診のご案内

脳ドックでは脳動脈瘤、脳卒中(脳出血、脳梗塞、くも膜下出血)や脳腫瘍、慢性硬膜下血腫などの早期発見・早期治療をすることが目的です。この機会に受診してみませんか。

実施日：令和2年12月1日(火)
2日(水)

検診場所：生活館夢工房駐車場内の検診車両

締 切 日：定員になり次第募集終了
(1日25人×2日間で50人まで)

申 込 先：JAえびの市生活課
33-5743

受 診 料：22,100円

そ の 他：受診日程は後日ご連絡いたします。

オートパル休日営業日のお知らせ

12月の休日営業日は

12月12日(土)

営業時間 8:30～17:00



◆お問い合わせ先◆

080-2716-5365 (担当：福元俊二)

第34回

田の神さあの里

産業文化祭

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、分散・縮小して開催します。

産業の部

11月14日(土)・15日(日) 9:00～16:00

会場 : JAえびの市本店 南側駐車場
展示・ブース : 農畜産物、農業機械、生産資材、特産品などの販売、女性部・飯野高校合同テナント（おこわや菓子販売。飯野高校の参加は14日のみ）、青年部テナント（加工品販売）、うどんコーナー、焼肉ガーデン

本誌表紙の粗品引換券をお持ちの方に粗品を配付します。
数に限りがあります。なくなり次第、粗品の配付は終了いたします。

文化の部

11月7日(土)～25日(水)

会場 : えびの市文化センターロビー
展示・ブース
11月7日(土)～11日(水) 一般の部 作品展示
11月14日(土)～18日(水) 保育園・幼稚園・認定こども園 作品展示
11月21日(土)～25日(水) 福祉施設・高齢者クラブ 作品展示

- ※市役所・グリーンパークからのシャトルバス運行はありません。
- ※自家用車でご来場の場合は、文化センター東側駐車場をご利用ください。
公共の交通機関でご来場の場合は、宮交路線バスをご利用ください。
- ※ステージイベント（芸能歌手等）、郷土芸能、田の神さぁおどりは実施しません。
- ※感染拡大防止対策のため、会場入り口では検温測定を行います。ご来場の際はマスクの着用をお願いいたします。
- ※発熱や咳等風邪症状がみられる場合は、来場はお控えください

お問い合わせ先

JAえびの市（総務課） 33-3100 えびの市役所（企画課） 35-3712

市内小学3年生が

ライスセンターを見学

市内小学3年生が、社会科見学でJAライスセンターと精米工場を訪れました。

10月15日に上江小学校、10月23日に真幸小学校が見学を訪れ、普段食卓や給食で食べているお米がどのようにできるのかをJA職員の案内で見学回りました。児童の皆さんは、玄米が積み上げられた倉庫の中を観察したり、1等米から3等米までの玄米を見比べて等級を当てるクイズに挑戦したりして、楽しんでお米について学んでいました。



「うり坊」7頭が畠に

10月19日の朝、下大河平自治会の江藤正道さん宅の庭に設置していた箱罫に、イノシシの子供7頭がかかっているのを、正道さんが発見しました。

イノシシは、まだ背中に縞模様が見える「うり坊」。正道さんによると7頭がいつべんに罫にかかるのは大変珍しいということです。



ピーマン部会に

GAPの抜き打ち審査

JAピーマン部会は、10月14日、グローバルGAPの抜き打ち審査を受けました。これは、GAP認証後も管理が維持されているかどうかを確認するもので、審査員は対象に選ばれた部会員の圃場のほか、集荷場、書類などをチェックしました。

グローバルGAPは農業生産管理の国際規格です。JAえびの市ピーマン部会は、JA宮崎中央にら部会、はまゆうピーマン部会、JA尾鈴ミニトマト栽培グループとともに今年4月に団体認証を取得しました。



キャラバン隊が

事故防止を呼びかけ

10月2日、農繁期の到来にともない、JA宮崎中央会から農作業事故防止のキャラバン隊が訪れました。キャラバン隊は、事故防止と注意を呼びかけながらえびの市内を回りました。

全国では毎年300人以上の農業者が農作業中の事故で亡くなっています。平成30年の調査では65歳以上の高齢者の事故が全体の86・5%を占めています。宮崎県内でも毎年多数の重傷事故や死亡事故が起こっています。日頃から安全対策に努め、意識を高めましょう。

